

独居老人の緊急時の対応は

質問 私の住む羽田町は地盤が低く、昔から水害の被害に悩まされてきた。避難訓練も行っているが、問題なのは独居老人の避難対策である。

については、現在独居老人は市内に何人いるのか。この独居老人の見守り体制はどうなっているのか。また、災害時などの緊急時における対応はどうするのか。

市長 独居老人の世帯は4178世帯であり全世帯の9・4%となっている。これらの見守り体制は、民生委員等による安否確認や、消防署との連携、在宅介護支援センターによる調査、「地域見守り支援ネットワーク」による通報体制も整備している。

緊急時の避難支援のため「住民支え愛マップ」の作成を進めている。ひとり暮らし高齢者が緊急時に身につけているペンダントを押すと看護師に繋がる緊急通報システムもあり、現在248台を設置している。

消防団員の確保対策

質問 昨年11月に行われた、消防団員との懇談会では、団員の待遇改善を求める声が多数寄せられた。

私の住む羽田町では、全戸が消防後援会に加入し、一戸が年間400円の



菊池 利美 議員(新世会)



消防団の纏い振り

会費を納入し、町内にある2つの分団に各11万円の事業補助金を、婦人消防協力会に5万円の育成補助を出している。

この他にも、消化用器具の点検と自主防災訓練を実施している。このような後援会の組織化のための、何らかの働きかけができないか。

市長 市が直接関与することは難しいものと考えている。

観光物産協会等との連携で観光振興を

質問 観光関係団体と役割分担をし、連携を密にし観光振興すべきと考えるが。

市長 観光物産協会は観光施策の中心となり推進し、さらに観光情報の発信を行う。商工会議所、商工会は街中イベントを推進し誘客促進を行う。市は国、県、市町村との連携と公的媒体での情報発信を行うなど役割分担を行う。また、祭りやイベント

において実行委員会の主たる構成メンバーとなり、広域の観光推進組織でも連携して活動している。今後もそれぞれの役割を果たし、連携し観光振興に努力していく。

質問 奥州市観光物産協会の観光振興事業、物産販売促進事業が県内他市と比較し取り組みが少なくように見える。多くの事業に取り組みめるよう支援、指導すべきと考えるが。

市長 協会の職員数や予算等により、取り組み事業等が制限されている点はあると思う。今後補助金や事業内容について十分話し合っていきたい。

質問 水沢観光物産センターの建設の経緯について伺う。

市長 平成14年に旧水沢市と旧水沢観光物産協会との契約により観光振興のため



観光物産協会が入るまちの駅水沢

に建設することになり、建設費7780万円は市が負担し、分割払いで平成34年9月まで毎年補助金で支払い、設備、備品等1000万円は観光物産協会が負担している。

質問 建設費を負担している市は水沢観光物産センターの運営について指導助言すべきと考える。現状と課題について市の考えを伺う。

市長 初期の目的である観光情報の発信、お土産品の紹介・展示販売、食堂・産直運営が行われている。課題としては建設後13年を経過しているので改修にかかる経費が必要となっている。



菊池 利美 議員(奥和会)